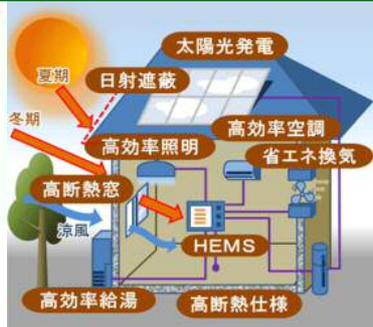


太陽光の導入費用支援 LIXILと東電、ゼロエネ住宅向け



LIXILグループと東京電力ホールディングスは21日、エネルギー収支を実質ゼロにするゼロエネルギー住宅(ZEH)向けの新サービスを10月から始めると発表した。

LIXILの省エネ建材でZEHを建てる顧客向けに両社が設立した新会社が一定期間の余剰売電収入を得る代わりに太陽光発電システムの導入

を支援。200万円程度の費用負担を実質的になくす。新会社はLIXIL製の太陽光発電システムを10年割賦で販売。この間に太陽光発電で得られる余剰売電収入を新会社が得る代わりにシステムの導入費用を負担する。新会社は自家発電だけでは足りない電気を安く供給して顧客の光熱費の負担を抑える仕組みも導入。LIXILは建材の供給などで20年度に220億円の売り上げ増を見込む。

情報提供: 日本経済新聞

ニチハ、2017年のサイディング・アワード受賞作品を発表

ニチハは、同社の内外壁材を使用した施工作品を対象とした「NICHIBA SIDING AWARD 2017」の受賞作品を発表した。応募総数378作品の中から、住宅部門、非住宅部門のグランプリなど19作品が選出された。審査員は、難波和彦氏(委員長)、飯島直樹氏。

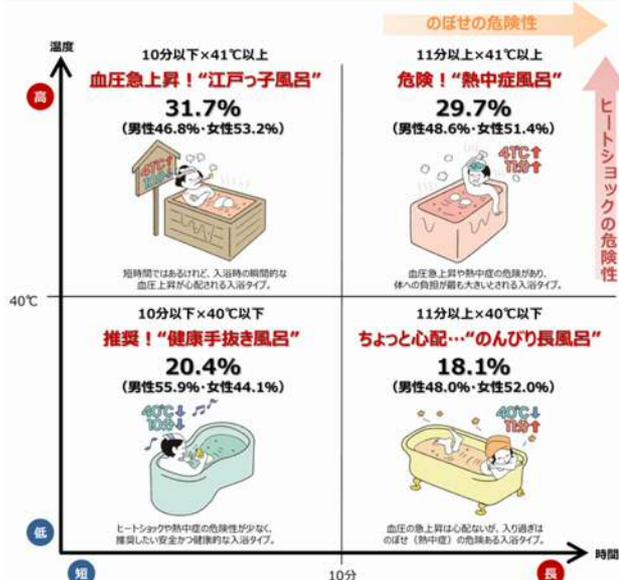
住宅部門のグランプリは、ポーラスターデザイン一級建築士事務所による栃木県の「I様邸」が受賞。凜とした切妻屋根に金属サイディングの繊細な垂直線や鼻隠しの斜線、フェンスの水平線が呼応し、住宅を軽やかで魅力的なものにしている点が評価された。

非住宅部門のグランプリは、デザイン・ワークスによる埼玉県の「レクサス CPO 浦和美園」が受賞。ブラックのサイディングに木・石を組み合わせることで上質感を高めているほか、全体をカバーする1枚の水平面がウエルカムウイングや間接照明として機能し、空間の魅力を効果的に演出している点が評価された。



情報提供: 新建ハウジング

「健康手抜き風呂」、実践している人は20.4%-リンナイ調べ



リンナイはこのほど、入浴習慣の実態や健康状態との相関関係を探るため、全国20～70代の男女計960人を対象に「入浴習慣」に関する意識調査を実施した。

浴槽に浸かる入浴を1週間のうち何日行かかを聞いたところ、「7日」と回答した人が43.9%で最多だった。また、入浴時間は平均15.2分だった。冬場の温度設定は42度が最も多く、40～42度がボリュームゾーンであることが分かった。

これらの入浴習慣の結果をうけて、入浴時間と入浴温度を軸に、入浴習慣を4つのタイプに分類したところ、安全かつ健康的な入浴とされる10分以下×40度以下の「健康手抜き風呂」を行っている人は20.4%だった。

情報提供: 新建ハウジング